

Characteristics, Injuries, and Clinical Outcomes of Geriatric Trauma Patients in Japan: An Analysis of the Nationwide Trauma Registry Database

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2021-03-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 三好, ゆかり メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002681

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2412 号

Characteristics, Injuries, and Clinical Outcomes of Geriatric Trauma Patients in Japan: An Analysis of the Nationwide Trauma Registry Database

本邦における高齢者外傷の特徴: 日本外傷データバンクの分析から

三好 ゆかり (みよし ゆかり)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

本論文は、世界でも有数の高齢化先進国である日本において、多施設が参画する大規模なデータをもとに高齢者外傷とその問題点について始めて明らかにした臨床的に意義ある論文である。本論文では 2004 年から 2017 年の日本外傷データバンクから抽出した 65 歳以上の外傷患者 131,088 名を 65 歳から 79 歳(70,707 名)、80 歳以上(60,381 名)に分け、それぞれについて患者背景、受傷機転、受傷部位、重症度、治療、転帰を評価した。受傷者の男女比は 65-79 歳で男性が多く(58.6%)、80 歳以上では女性が多かった(男性 36.3%)。いずれの年齢帯においても転倒転落は主要な受傷機転であり 65-79 歳で 56.7%、80 歳以上で 78.9%であった。転倒転落による死亡率は 65-79 歳が 7.7%、80 歳以上が 6.6%であった。80 歳以上の高所転落の死亡率は 30.5%であった。全死亡率は 11.8%であり、そのうち 65-79 歳では 12.3%、80 歳以上では 11.2%であった。入院した患者の多くはその他の病院へ転院となった。退院時転帰が転院であった患者は 65-79 歳で 52.5%、80 歳以上で 66.2%であった。本研究により高齢者外傷でも年代によりその特徴に違いがあり、それぞれに適切なケアの必要性が示唆された。今後も高齢化は不可避な問題であり、疫学的な視点からの検討は公益に資するものと考えられる。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。